

U.S. Indicators

発表日: 2019年11月15日(金)

米国 19年10月鉱工業生産はストで下振れ

～生産活動のモメンタムは一段の下振れ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (TEL: 03-5221-5001)

鉱工業生産											
	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率		生産能力
									全産業	製造業 (SIC)	
18/10	+0.2	(+4.1)	▲0.1	+0.1	+2.6	▲0.6	▲0.1	▲1.9	+79.3	+76.8	+0.2
18/11	+0.5	(+4.1)	+0.2	+0.8	+2.7	▲1.1	+0.2	+0.6	+79.6	+76.9	+0.2
18/12	+0.0	(+3.8)	+0.6	+2.2	▲6.8	▲0.1	+0.8	+4.0	+79.5	+77.3	+0.2
19/01	▲0.4	(+3.6)	▲0.6	▲0.4	+0.8	+1.5	▲0.8	▲7.2	+79.0	+76.7	+0.2
19/02	▲0.5	(+2.7)	▲0.5	▲1.3	+0.6	+0.8	▲0.4	+1.6	+78.5	+76.3	+0.2
19/03	+0.1	(+2.3)	▲0.1	▲0.2	+1.7	+0.8	▲0.2	▲1.3	+78.4	+76.2	+0.2
19/04	▲0.6	(+0.7)	▲0.9	+2.6	▲3.3	▲1.2	▲0.8	▲1.7	+77.8	+75.4	+0.2
19/05	+0.2	(+1.7)	+0.1	▲0.3	+1.9	▲0.4	+0.1	+2.4	+77.8	+75.4	+0.2
19/06	+0.0	(+1.0)	+0.5	+0.4	▲4.2	+1.2	+0.6	+2.7	+77.7	+75.7	+0.2
19/07	▲0.1	(+0.4)	▲0.3	▲2.2	+4.4	+1.8	▲0.5	+0.9	+77.4	+75.4	+0.2
19/08	+0.7	(+0.4)	+0.6	+2.6	▲0.6	+1.6	+0.6	▲1.2	+77.9	+75.7	+0.2
19/09	▲0.3	(▲0.1)	▲0.5	▲0.8	+1.9	+0.4	▲0.6	▲5.5	+77.5	+75.2	+0.2
19/10	▲0.8	(▲1.1)	▲0.6	▲0.7	▲2.6	+0.1	▲0.7	▲7.1	+76.7	+74.7	+0.2

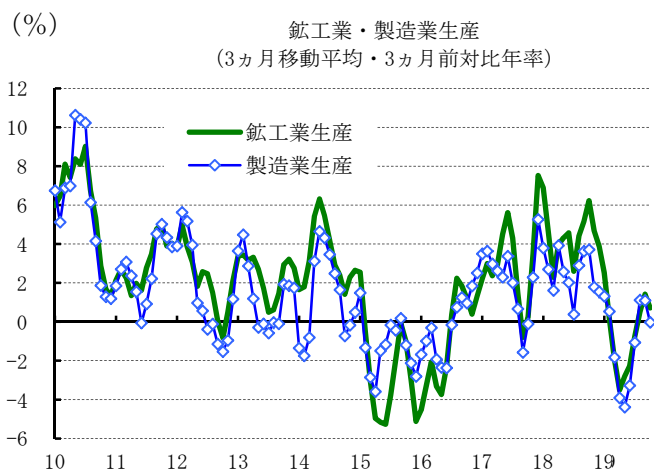
(注)カッコ内は前年比

19年10月の鉱工業生産は、前月比▲0.8%（9月同▲0.3%）と減少幅が市場予想の同▲0.4%を上回った。公益が前月比▲2.6%（9月同+1.9%）と減少に転じたほか、製造業がGMのストの影響により前月比▲0.6%（9月同▲0.5%）と市場予想の同▲0.7%を上回ったものの減少幅を拡大したほか、鉱業が前月比▲0.7%（9月同▲0.8%）と減少を続けた。

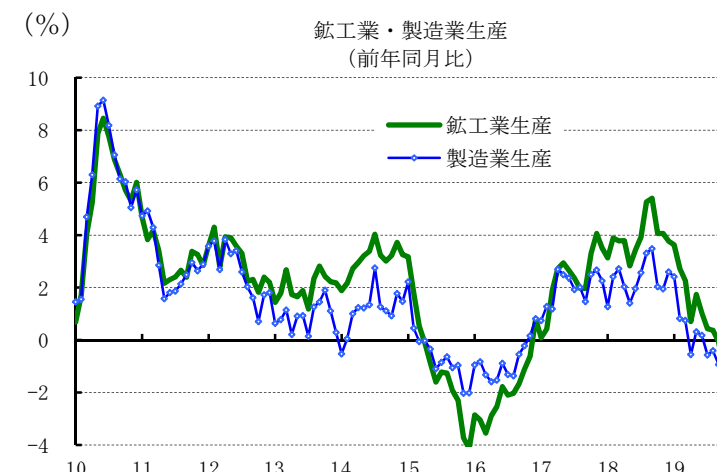
10月の生産活動は、半導体などハイテク部門の堅調維持にもかかわらず、GMのストによる自動車関連の急減によって、大幅に下振れた。3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が+0.7%（前月+1.4%）、製造業生産が0.0%（前月+1.1%）と大幅に鈍化したほか、前年比では、鉱工業生産が▲1.1%、製造業は▲1.5%とマイナス幅を拡大した。さらに、先行する企業景況調査によると、生産活動のモメンタムは一段と悪化することが示唆されている。

10月の大幅な下振れは、GMのストによる一時的な影響であり、11月以降に大幅な反動増が見込まれる。ただし、ドルの高止まりや海外需要の減退、中国などの関税引き上げと輸入規制による輸出の停滞などによって、生産活動は停滞を続けると予想される。

製造業の業種別の動向では、一次金属、一般機械、印刷・同サポートが拡大に転じたほか、木材製品、食品・飲料・タバコが堅調な拡大を続けた。一方、コンピューター・電子機器、航空機・その他輸送設備、家具・関連製品、繊維、アパレルが減少に転じたうえ、加工金属、電気設備・部品、自動車・同部品、その他耐久財、紙、石油・石炭、化学、プラスチック・ゴム製品、その他製造業が減少を続けた。また、非鉄が鈍化した。



(出所) F R B

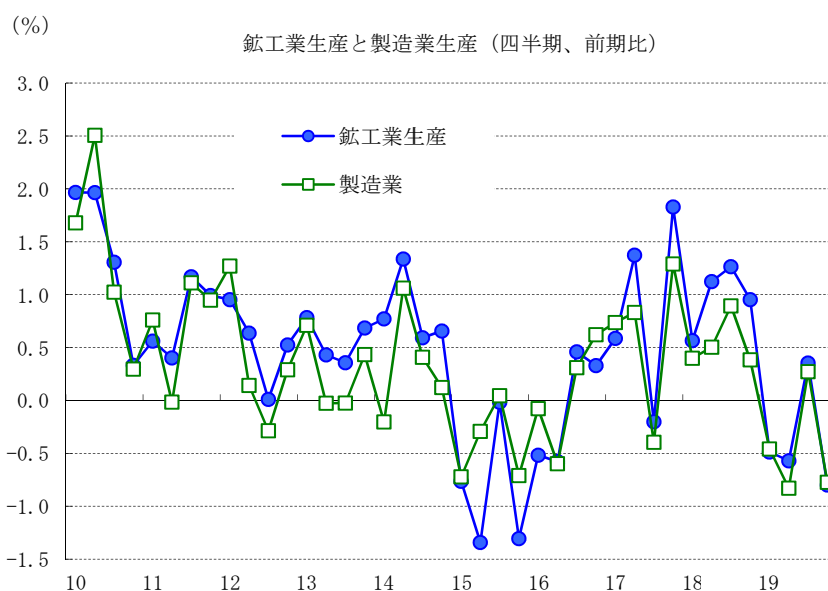


(出所) F R B

四半期では、10月の鉱工業生産は、前期比年率▲3.2%と7－9月の前期比年率+1.4%から減少に転じた。内訳では、鉱業が前期比年率▲1.4%（7－9月期前期比年率▲2.4%）とマイナス幅を縮小した一方、製造業は前期比年率▲3.1%（7－9月期前期比年率+1.1%）、公益事業が前期比年率▲6.2%（7－9月期前期比年率+9.4%）とマイナスに転じた。

19年の生産活動は、国内需要の拡大に支えられるものの、ドル高水準の持続や貿易戦争によるコスト増加、先行き不透明感の高まりの影響を受け、製造業生産が▲0.2%（18年+2.3%）、鉱工業生産が+0.7%（同+3.9%）に鈍化すると予想される。

20年は在庫調整の進展、世界景気の持ち直し等を背景に、製造業生産が+0.8%（19年▲0.2%）と増加に転じるほか、鉱工業生産が+1.1%（同+0.7%）とプラス幅を拡大すると見込まれる。



(出所) F R B

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

